

令和 6 年 6 月 13 日現在

機関番号：24405

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2023

課題番号：19K01173

研究課題名(和文)プランテーション・フロンティアにおける小農社会変容の政治生態学

研究課題名(英文)Political ecology of small-scale oil palm cultivation by indigenous people in Borneo

研究代表者

祖田 亮次 (Soda, Ryoji)

大阪公立大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：30325138

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：2020年度からのコロナ禍により2年間の延長を行うことで、研究の遅れを取り戻すことができた。具体的には、次のことを明らかにすることができた。1) 大規模農園vs先住民という対立構図だけではなく、両者の多様な関係性が構築されつつある。2) 小農にもライセンス登録や認証取得が義務付けられたことで、小農のフォーマライズ/オーソライズが進んだ。3) 各種制度に組み込まれるなかで世界市場とのつながりが具体化してきた。4) アブラヤシ生産者団体の役割・機能が大きく変化し、各スケールにおけるアクター間の新たなネットワークの構築が進んだ。以上より、アブラヤシ栽培をめぐる「政治性」が顕著になりつつあることが分かった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義としては、次の点にある。焼畑民や狩猟採集民とカテゴライズされてきたボルネオの内陸先住民が、アブラヤシという「世界商品」の栽培と流通を通して、どのように垂直統合されてきたかを示すことができた。それによって、東南アジア各地における小農の政治生態学的研究との接合可能性を見出すことができた。また、認証をめぐる制度的な問題や、外国人労働者の雇用などについても新たな知見を得ることができ、従来の第三世界における小農研究とは異なる視点を提示できたと考えられる。

研究成果の概要(英文)：By extending the research period by two years due to the COVID-19 pandemic starting in fiscal year 2020, it was possible to make up for the delays in research. Specifically, the following points were clarified:

1) Different relationships between large farms and indigenous peoples are being constructed, not just a simple oppositional framework. 2) Smallholders have been formalized and authorized, as they are now required to obtain licenses and certifications. 3) Links with the global market have become tangible as they are integrated into different systems. 4) The roles and functions of oil palm producer groups have changed significantly, leading to the development of new networks among actors at different scales.

From the above, it is clear that the "politicization" of oil palm cultivation is becoming more pronounced.

研究分野：地理学

キーワード：マレーシア サラワク アブラヤシ 政治生態学 プランテーション 小規模生産者(小農) 先住民生産者団体

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

東南アジアの辺境地域では、小農社会を取り巻く動向が大きく変化している。とくに、島しょ地域を中心に森林伐採やプランテーション開発が進行しており、辺境の村々においても、開発の動きに直面している。そうした動きは、従来型の生業形態や土地利用にも大きく影響を与えており、先住民社会の変化過程はドラスティックな局面を迎えつつある。外部社会との接点が増加し、一部では世界商品であるアブラヤシなどの商品作物導入に踏み切る例もみられるようになった。そうした外部社会との接続には、農村地域から都市に移住した人々が果たす役割も大きい。このように変化の激しい東南アジア辺境社会を、政府や企業、都市住民との関係も含め、マルチ・スケールで考察する必要に迫られている。

2. 研究の目的

本研究では、マレーシア・サラワク州を事例に、小農社会を取り巻く新たな動向を多角的・多層的に検討し、グローバルな市場経済との関係から企業 - 小農関係および都市 - 農村関係を再定義し、開発最前線における小農の生存戦略を明らかにする。プランテーションの世界とは別の世界で営農してきた先住民が、都市住民との農村土地利用の競合や、認証制度の全国的浸透などを通じて、外部社会とどのような関係性を構築しつつあるのかを、ミクロからマクロまでの各空間スケールにおいて具体的に調査し、政治生態学的な枠組みで議論する。それによって、東南アジアのプランテーション・フロンティアにおける小農の生存戦略モデルを提示する。

3. 研究の方法

現地での聞き取り調査を中心に進めつつ、各種の統計資料を収集することで、ローカルレベルの現象とナショナルあるいはグローバルレベルでの現象を結びつけて考察する。その際、政治生態学的な枠組みを利用して、各種の空間スケールを意識した形で、スケール間をつなぐアクターに注目した調査を行う。より具体的に言えば、現場のローカルレベルにおいては、近年新たに創設された小農生産者団体 DOPPA の幹部やメンバーに聞き取りを行い、先住民の生業変化や世界商品作物の栽培戦略について詳細な情報を得る。また、都市住民によるアブラヤシ栽培への参入状況については、都市と農村の間を行き来する人々を対象に聞き取り調査を行う。一方、国際的に求められる認証の取得状況やそれへの対応については、マレーシア・パーム油協会に聞き取りを行うことで、スケール間の関係性を考察するための情報収集を行う。統計情報としては、マレーシア・パーム油協会やマレーシア農業省での資料収集を行うほか、国際的な環境 NGO が提供する各種情報も利用する。

4. 研究成果

マレーシア・サラワク州においては、過去 20 年間で、大企業によるアブラヤシ・プランテーション (大規模農園) 開発が急速に拡大した。それに影響される形で、過去 10 年間では、先住民による小農的アブラヤシ栽培が活発化してきた。その際に、農村住民だけでなく、都市在住先住民たちも、農村における生業変化に大きく関与してきたことが明らかになった。とくに DOPPA (ダヤク・アブラヤシ生産者協会) の役割は大きく、農村住民と都市住民を結び付けるだけでなく、各種の公的機関や NGO との接続にも寄与している。さらに、世界商品を栽培することによって、国際的な各種機関との関係も強くなっており、サプライチェーンの垂直的統合が進む中で、各スケールでの関連アクターは想像以上に多様化していることも明らかになった (図 1)。

こうした状況のなかで先住民たちは、従来型の生業と組み合わせながら、新たな作物栽培戦略を展開しており、それに伴い、都市 - 農村間移動の形態も多様化させつつある。世帯内メンバーで複数の居住地を維持するなど、多点居住とも言うべき生業を取るケースも数多くみられるようになってきた。

一方、世界商品を扱う上で、国際的な取引や認証に関する情報へのアクセスが重要視されるようになり、こうした状況に対応するためにデジタルツール (デバイス) の活用も進みつつある。たとえば、これまで測量も登記もなされていなかった内陸の広大な土地でアブラヤシ栽培を行う場合、スマートフォンの GPS 機能を利用した地図の作成も普及しつつある。また、アブラヤシ栽培の拡大は、先住民による外国人労働者雇用の促進につながっており、こうした外国人雇用にもデジタルデバイスが利用されており、ある側面では、情報格差の問題は一気に解消されつつある。こうした新しいツールの利用は、認証制度の普及によるフォーマル化の進展も影響しているものと思われる。

認証制度の普及は世界市場への先住民あるいは辺境小農の統合という面を強く持ちながらも、別の動きも存在する。外国人労働者の雇用はプランテーションとの関係も深いですが、その多くは非合法のインフォーマル労働者である。また、認証の過程も地方によっては独自の緩和策が用いられるなど、なし崩し的に (再) インフォーマル化が進んでいる。このように、サプライチェーンの垂直的統合という動きの中でも、辺境地域では小農のフォーマル化とインフォーマル化のあいだで揺れ動いている状況を見て取ることができた。

Scales?: SHs connected to global market → SHs integrated into national system / global market

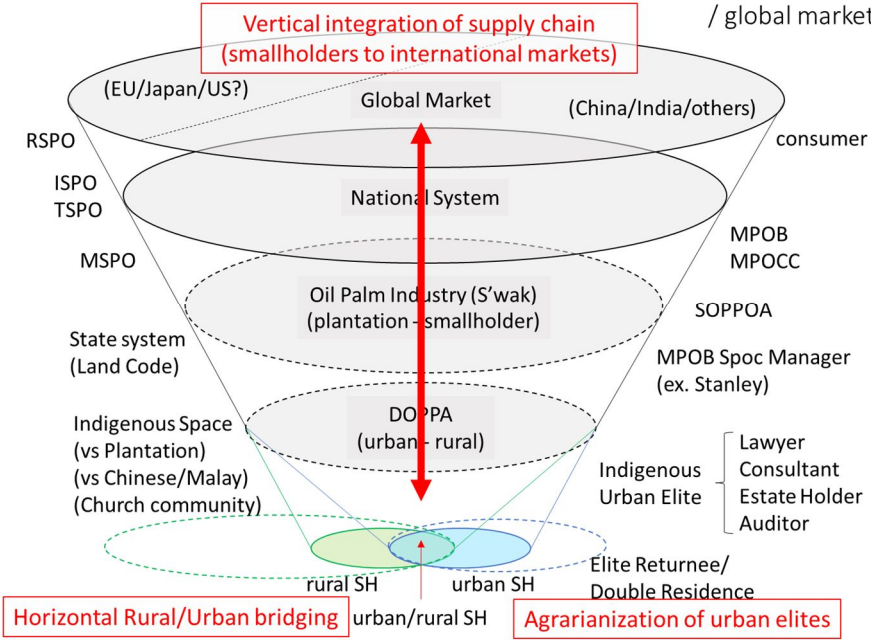


図1 アブラヤシ栽培をスケール間関係と関連アクター

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 6件）

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 加藤裕美・祖田亮次 | 4. 巻 59 |
| 2. 論文標題 マレーシア・サラワク州におけるインドネシア人労働者のインフォーマル化 在地アブラヤシ小農との関係から | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 福井県立大学論集 | 6. 最初と最後の頁 105-131 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |
| 1. 著者名 Soda, R. and Kato, Y. | 4. 巻 26 |
| 2. 論文標題 The Employment of Indonesians on Oil palm Smallholdings in Sarawak, Malaysia | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 Space, Society and Geographical Thought | 6. 最初と最後の頁 19-30 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |
| 1. 著者名 Yaakub, N.F., Masron, T., Marzuki, A., and Soda, R | 4. 巻 14(3) |
| 2. 論文標題 GIS-based spatial correlation analysis: sustainable development and two generations of demographic changes | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 Sustainability | 6. 最初と最後の頁 1-19 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3390/su14031490 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 該当する |
| 1. 著者名 祖田亮次 | 4. 巻 91(5) |
| 2. 論文標題 災害と格差 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 科学 | 6. 最初と最後の頁 479-481 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 小泉佑介・祖田亮次 | 4. 巻 73(3) |
| 2. 論文標題 ポリティカル・エコロジー論の系譜と新たな展開 スケールに関する議論を中心に | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 人文地理 | 6. 最初と最後の頁 245-260 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4200/jjhg.73.03_245 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 祖田亮次 | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 多生業とは何か 東南アジアと日本の山間地域の事例から | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 水内俊夫・鴨河貴澄編『ひとつの日高川流域誌 多生業に生きる寒川の150年』大阪市立大学都市研究プラザ | 6. 最初と最後の頁 145-151 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名 祖田亮次 | 4. 巻 72 |
| 2. 論文標題 熊谷圭知著『パプアニューギニアの「場所」の物語 動態地誌とフィールドワーク』 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 Japanese Journal of Human Geography | 6. 最初と最後の頁 166 ~ 167 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4200/jjhg.72.02_166 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 祖田亮次・生方史数・葉山アツコ | 4. 巻 75 |
| 2. 論文標題 認証制度を契機とした小農ネットワークの形成 マレーシア・サラワク州のアブラヤシ栽培を事例に | 5. 発行年 2024年 |
| 3. 雑誌名 人文研究 | 6. 最初と最後の頁 53-70 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 Ahmad, A., Masron, T., Jubit, N., Redzuan, M.S., Soda, R., Bismelah, L.H. and Mohd Ali, A.S. | 4. 巻 20(2) |
| 2. 論文標題 Analysis of the Movement Distribution Pattern of Violent Crime in Malaysia's Capital Region-Selangor, Kuala Lumpur, and Putrajaya | 5. 発行年 2024年 |
| 3. 雑誌名 International Journal of Geoinformatics | 6. 最初と最後の頁 11~26 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.52939/ijg.v20i2.3061 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 該当する |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 祖田亮次・松木駿也 | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 災害文化のジレンマとその克服 脆弱性論との関係から | 5. 発行年 2024年 |
| 3. 雑誌名 社会と災害文化研究所所報 | 6. 最初と最後の頁 31-36 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計4件(うち招待講演 2件/うち国際学会 1件)

| |
|--|
| 1. 発表者名 祖田亮次 |
| 2. 発表標題 ボルネオにおける環境変化と人-自然関係 |
| 3. 学会等名 大阪公立大学第7回アカデミックカフェ「火に関わる自然環境と人の暮らしー地質年代と現在」(招待講演) |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 小泉佑介・祖田亮次 |
| 2. 発表標題 ポリティカル・エコロジー論の新たな展開 環境ガバナンスのリスケーリングに関する予備的考察 |
| 3. 学会等名 2020年人文地理学会大会(オンライン) |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 祖田亮次・生方史数・葉山アツコ |
| 2. 発表標題 アブラヤシ認証が創り出すサラワク「小農」世界 生産者団体の活動に着目して |
| 3. 学会等名 第29回日本熱帯生態学会年次大会（北海道大学） |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Soda, R. |
| 2. 発表標題 Changes in livelihoods and demographic dynamics in a world with a small population: the case of Northwestern Borneo |
| 3. 学会等名 International Conference "Debating Economic Development in Tropical Asia: Historical Pathways, Environmental Constraints and Population Growth"（招待講演）（国際学会） |
| 4. 発表年 2024年 |

〔図書〕 計5件

| | |
|----------------------|-----------------|
| 1. 著者名 佐藤廉也・中澤仁編 | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 放送大学出版会 | 5. 総ページ数 255 |
| 3. 書名 人文地理学から見る世界 | |

| | |
|---------------------|-----------------|
| 1. 著者名 床呂郁哉編 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 京都大学学術出版会 | 5. 総ページ数 362 |
| 3. 書名 わざの人類学 | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 Ishikawa, N. and Soda, R. eds. | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 Springer | 5. 総ページ数 639 |
| 3. 書名 Anthropogenic Tropical Forests: Human-Nature Interfaces on the Plantation Frontier | |

| | |
|---------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 脇村孝平編 | 4. 発行年 2024年 |
| 2. 出版社 ミネルヴァ書房 | 5. 総ページ数 317 |
| 3. 書名 近現代熱帯アジアの経済発展 人口・環境・資源 | |

| | |
|-------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 公益社団法人日本地理学会編 | 4. 発行年 2023年 |
| 2. 出版社 丸善出版 | 5. 総ページ数 844 |
| 3. 書名 地理学事典 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|---------------------------|-----------------------|----|
|---------------------------|-----------------------|----|

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|